

学校・保護者・地域をつなぐ…

# うてよびびけよ 鼓中通信

## 第17号

「来てよかった、明日も来たい」学校を目指して  
令和5年12月22日

鈴鹿市立鼓ヶ浦中学校  
☎059-386-5852

## 学校と家庭は車の両輪…

保護者会、ありがとうございました。保護者の皆様の、教育活動へのご理解・ご支援のおかげで、無事に2学期が終わります。

さて、2学期はたくさんの行事がありました。行事の参観のほかにも授業参観ウィークを設けることで、おうちの方にできるだけ気軽に学校に来ていただき、お子さんたちの様子を見守っていただく機会を設けました。

そして、学校の課題等を共有していただき、学校とご家庭での両輪で教育活動ができるようすすめてまいりました。

学校だけではうまく進まないことがあっても、お家の方の協力を得られたり、学校と家庭の連携が進んでいったりすると、徐々に子どもの様子が変わってきます。大変ありがたく、ご家庭での教育力のすごさを実感したところ です。また、学校教育の中では、お子さんの成長は、通知表だけでは測れません。人に頼らず自分でできるようになったこと、失敗した後によく努力したことなど、人として成長できた部分は大いに褒めてやってください。今後とも学校と家庭の両輪で教育を進めてまいりたいと思いますので、よろしくお願いいたします。



## ◆◇1年生防災学習 HUG(避難所運営ゲーム) ◇◆

1年生は、2学期の総合の時間に防災学習を積み重ねてきました。鼓ヶ浦中学校は津波の心配のある学校で、毎年3月11日には第3次避難として稲生小学校まで逃げる練習をしています。12月4日

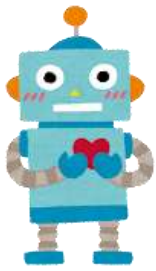
(月)には、県の防災危機管理課の方にきていただき、災害時に鼓ヶ浦中学校が避難所となった時、どのような状況のご家族をどのような場所に避難生活をしてもらうよう指示していくか



という避難所運営のレクチャーを受けました。実際に避難所となった場合、中学生も大人と同様の動きをしていく場面もあります。全体の把握と想像力ととっさの判断が問われます。生徒たちは、悩みながらも真剣に話し合いながら決断していました



# よりよく生きる・・・まずは真摯に振り返ることから



「個性を磨く」という言葉をよく聞きます。「自分らしさ」って何？…誰でも悩む人生の課題の一つです。思春期はもちろん一生をかけて悩むこともあるかもしれません。生物学的に言うと、個性とは、もうすでに持ち合わせている顔、形、性質、声、特性(丈夫さなど)であって、磨くものではないといえます。そして、誰一人として生まれた時から同じものはありません。

つまり、もともと人はそれぞれが個性的であるということです。

では、人間は全く個別のものかという、いえ、共通点があります。・・・それは、大人も子どもも、嬉しいことを嬉しく、悲しいことを悲しく、寂しいことを寂しく、つらいことをつらく感じる「感情」であるといえます。共通に感じるからこそ、「共感する力」が人間にだけ備わっているといわれ、だからこそ「思いやり」「心遣い」「気配り」ができるのですよね。そして、人間が幸せを感じる時は、人の役に立っていると実感できた時であるといえます。人とかかわって生きていく力を身に着けることは、実は、学力よりも大切なことです。

さて、中学生の時には「よりよく生きたい」という人間だけに備わっている脳の部分が一番発達します。失敗したときに、その後どういう行動をとるか、大人から教えることも大切ですが、自分で考え、自分で軌道修正していく、それに根気強く取り組んでいくことが、脳の「よりよく生きたい」という人間らしさの発達を促します。だから、クラスが悪いから、先生が嫌だから…など、うまくいかないことや失敗を誰かのせいにして、自己中心的に考えたりするうちは、自分を振り返って反省し、修正していくことができません。失敗したときやうまくいかない時こそ、自分で考えて自分なりの答えを導き出し、人とのかかわりを再構築できるよう、見守っていきたいものです。

しかし、時には同じような失敗を繰り返す場合もあります。そんな場合は、かみ砕いた状況説明が必要であったり、あるいは家庭でよく話を聞いてあげ、励まし十分に安心させてあげる気持ちの栄養や環境が必要であったりします。

そこは、一人ひとり「個性」があるので、学校と家庭と連携していく必要があります。

ぜひ、車の両輪で相談させていただきながら、ベクトルを合わせて動いていきましょう。



## 冬休み・3学期の予定の追加訂正とお詫び

12月25日(月)生徒会研修会 市役所

3月7日(木)卒業証書授与式

3年生と保護者、地域の方一部の参列となります。

## 7.8組の活動のひとつ

畑で育てたサツマイモで作った鬼まんじゅう。

自給自足。生活を楽しむ、なんとも心豊かなひと時。